

No	指摘箇所ページ数	章-項	ご意見・ご提案の内容(一部抜粋)	ご意見に対する市の考え方	担当部署
1			(全体的な項目として) 指標設定の根拠となる過去の実績等を示して欲しい。	現在統計資料等を掲載していない状況であり、実際には、全ての項目についてとはいかないが、指摘の箇所を含めグラフや表を用いて推移といった形で盛り込んでいく予定である。	企画政策課
2	40	2-1-1	近年、学校では多様な子どもたちが増えており、特別支援教育の重要性も増してきている。特別学級以外でも、やはり個別に対応してあげないといけない子どもがいるという現状である。現場でも一生懸命対応しているところだが、障害の程度も多様であり、どうしても支援員が必要となっている。現在各校1名程度は配置していただいているが、今後はどう対応していくのかという点は非常に大きな課題となっている。指標として、支援員の配置目標を各校1名としてあるが、八代の未来を作っていく子どもたちのためにも支援員の増員を検討いただけないか。大規模校ではこれではとてもやっていけない状況である。要望としてとらえていただきたい。	24年度は小学校に29名、中学校に10名、八代養護学校に3名の特別支援教育支援員配置しているが、特別な支援を要する児童生徒は年々増加しており、学校からの配置増の要望は高い。 24年度実施した、配置希望調査によると、小学校からは49名の配置希望、中学校からは16名の配置希望、八代養護学校からは4名の配置希望が出されている。教育委員会としては、25年度当初予算に3名分の増額をお願いしているところ。まだ配置希望数との開きがあるが、必要とする学校を精査し、可能な限り学校要望に沿った配置計画を立てていきたい。 なお、24年度において特別支援教育支援員を3名配置している学校が2校、2名配置は9校である。 また、特別な支援を要する幼児への支援員として幼稚園保育指導員を幼稚園へ7名配置している。 (参考：小・中・特別支援学校の特別支援教育支援員数 H20：25名、H21：32名、H22：33名、H23：38名、H24：42名)	学校教育課
3	56 67	3-1-1 3-1-6	都市についてはコンパクト化ということが言われている。計画案では第6項「魅力ある都市（市街地）形成」にて触れられているが、第1項「計画的な土地利用の推進」のほうで触れるほうが適切かと考える。	指摘のとおり、「計画的な土地利用の推進」を図る上で都市機能の集約化は重要な目的のひとつであるが、第1項では主に【都市や農地、森林の整備については各分野別の計画に基づきながら推進していく】という大きな方向性について記載をおこなっていることから、コンパクトシティへの取組みについては別立てにて記載をしているところ。 なお、第6項「魅力ある都市（市街地）形成」に記載をおこなった経緯ですが、まず前期基本計画におけるコンパクトシティへの取組みについては中心市街地を含めた市街地形成の項目にて整理をおこなっていたこと、また、都市計画マスタープランにおいても、特に各地域拠点（市街地）における都市機能集約を掲げていること、この2つの理由により、「魅力ある都市（市街地）形成」にて記載をおこなっているところである。	都市政策課
4	94	4-1-2	活動指標に掲げられているシカの捕獲頭数だが、現状を考えると目標値をもっと高めに設定して欲しい。	シカの捕獲数については、熊本県の第4期特定鳥獣保護管理計画に基づいて算出している。 この計画によると、八代、球磨北部地域における推定生息数は16,835頭、1km ² あたりの頭数は12.1頭となっており、目標とする頭数は、自然公園等を含む地域は「保護地域」として生息数を5頭/km ² 、その他の地域は「調整地域」として2頭/km ² を目標としている。また、新たな生息確認ができた地域は「生息拡大地域」として0頭/km ² が目標となっている。 八代市においては、泉地区が「保護地域」、坂本・東陽地区が「調整地域」、旧八代市・千丁・鏡地区が「生息拡大地域」とされており、捕獲の計画は、これらをもとに設定した。 これまでの捕獲隊及び平成24年度に設置した「鳥獣被害対策実施隊」も年間を通じて捕獲活動に取り組み、目標に向けて鋭意努力を行っているが、約8割強の2,000頭に留まっている状況である。 今後、実施隊員の高齢化や隊員数の減少が見込まれるが、銃器のほかにワナを有効に活用するなど、より多くの捕獲ができるよう取り組み、保護管理を行いたい。 (参考：各年度捕獲数 H19：1,665頭、H20：2,233頭、H21：2,340頭、H22：2,045頭、H23：2,009頭)	水産林務課